

九 終なり今わら昔わら後ある全能は者あり ○ 我ヨハ子即ち爾曹の兄弟なり
 十 人に神は道とイエスに證は爲にバトモスといふ處に居て主の日に我靈に
 十一 感じて鑑はれ如き大なる聲は我後に在を聞り云く爾の見どころを書に錄
 十二 ルヒアラオゲキヤの七の教會に贈るべし三われ身を轉して我に語る聲を
 十三 觀んとし既に身を轉せば金の七の燈臺又其七の燈臺れ間に人の子は如
 十四 き者あるを見たり其身に足まで垂る衣をき胸わの金に帶を束ね首と
 十五 ツ髪と白こと羊は毛は如く雪の如く目ハ火絡は如し十五足の爐に燒る眞鍮
 十六 足は如く聲ハ大水は響は如し十六右は手にハ七は星をもち兩刃は利劍うは口
 十七 よりいで面の甚しく輝く日の如し我これを見しとき死る者は如く其足
 十八 下に仆れたも彼右は手を我に按て曰けるハ懼るく勿れ我の首先なり末後
 十九 なり大我ハ生者なり前に死してぞわら觀よ我の世々窮りなく生んアマン

九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八

十九 我ハ陰府と死とは輪を持ちたかなんち見し所および今ある所はてと後ある
 二十 所は事を錄すべし三其ハ爾が見し所は我が右は手は七は星また七の金の
 二十一 燈臺の奧義なり七の星ハ七の教會の使者七の燈臺ハ七の教會なり
 二十二 金の燈臺は間を行む者かくの如く言と三日われ爾は行爲と勞苦と忍爾
 二十三 爾が惡人を容る能ざるど爾が囊に夫の自ら使徒なりと稱て實ハ使徒に
 二十四 非ざる者を試みて其妄言を見わらしし事と三爾が忍爾する事と我名の
 二十五 ために患難を忍びて徳ざりし事とを知然我あんにちに責べき事わり爾
 二十六 初時の愛を離れたり五あんにち何處より墜しかを憶ひ悔改めて初は工を行
 二十七 へ然亦して爾もし悔故めずハ我あんにちに到り爾は燈臺を其處より取除か
 二十八 然も爾に一は取べき事わりニヨライ宗は人ハ行爲を惡むとなり我
 二十九 も之を惡めり七耳ある者ハ靈は諸教會にいふ所を聽べし勝をうる者わ
 三十 我神は樂園にある生命は樹は實を食ふ事を許さん ○ 人あんにち又スマルナ

十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

イ 一六〇六
ロ 一六〇七
ハ 一六〇八
ニ 一六〇九
ヒ 一六一〇
ヘ 一六一一
セ 一六一二
ゼ 一六一三
エ 一六一四
ケ 一六一五
コ 一六一六
ク 一六一七
ケ 一六一八
コ 一六一九
ク 一六二〇
ケ 一六二一
コ 一六二二
ク 一六二三
ケ 一六二四
コ 一六二五
ク 一六二六
ケ 一六二七
コ 一六二八
ク 一六二九
ケ 一六三〇
コ 一六三一
ク 一六三二
ケ 一六三三
コ 一六三四
ク 一六三五
ケ 一六三六
コ 一六三七
ク 一六三八
ケ 一六三九
コ 一六四〇
ク 一六四一
ケ 一六四二
コ 一六四三
ク 一六四四
ケ 一六四五
コ 一六四六
ク 一六四七
ケ 一六四八
コ 一六四九
ク 一六五〇
ケ 一六五一
コ 一六五二
ク 一六五三
ケ 一六五四
コ 一六五五
ク 一六五六
ケ 一六五七
コ 一六五八
ク 一六五九
ケ 一六六〇
コ 一六六一
ク 一六六二
ケ 一六六三
コ 一六六四
ク 一六六五
ケ 一六六六
コ 一六六七
ク 一六六八
ケ 一六六九
コ 一六七〇
ク 一六七一
ケ 一六七二
コ 一六七三
ク 一六七四
ケ 一六七五
コ 一六七六
ク 一六七七
ケ 一六七八
コ 一六七九
ク 一六八〇
ケ 一六八一
コ 一六八二
ク 一六八三
ケ 一六八四
コ 一六八五
ク 一六八六
ケ 一六八七
コ 一六八八
ク 一六八九
ケ 一六九〇
コ 一六九一
ク 一六九二
ケ 一六九三
コ 一六九四
ク 一六九五
ケ 一六九六
コ 一六九七
ク 一六九八
ケ 一六九九
コ 一七〇〇

ア 撒拉二〇九章十二
 キ 本廿四〇三
 コ 本廿九〇九
 サ 本廿九〇九
 シ 約三〇五
 ス 聖三〇六
 タ 聖三〇六
 チ 聖三〇六
 ツ 聖三〇六
 テ 聖三〇六
 ト 聖三〇六
 ナ 聖三〇六
 ニ 聖三〇六
 ノ 聖三〇六
 ハ 聖三〇六
 ヒ 聖三〇六
 ヘ 聖三〇六
 ホ 聖三〇六
 ニ 聖三〇六

二 循以て報を爲てどを知らん我之は餘はアラアラ人いまだ此教を受ず所
 三 謂サタツは興義を未だ識ざる爾曹お言われ他は任を爾曹お負せし三
 四 人ぢら有てどの者を我いたる時ぢで固く保つべし三勝を得て終に至る
 五 まで我が命せし事を守る者に我諸邦は民を治むる權威を賜へん三彼の
 六 鐵は杖をもて諸邦の民を牧り彼等を陶瓦は器は如く碎かん我わが父より
 七 受たる權威は如し示我まは彼に曙は明星を賜へん三耳ある者ハ靈は諸教
 八 會わいふ所を聽べし
 九 爾サアルズは教會は使者に書贈るべし神は七は靈を持まは七は星
 十 を持りて此は如く言はれ爾は行爲をしろ又なんぢに生る名ありて其の
 十一 實ハ死るとを知らんなんぢ目を醒し幾せ死んとする殘情を堅せよ我なん
 十二 ぢは行爲は我神の前に全きを見ざる也三是故に爾が受たるとを聞たる
 十三 所を憶起これを守りて悔改めよ若し目を醒し居ずバ我盜賊は如く爾に到
 十四 らん爾わが何の時なんぢに到るかを知ざる也三然てもサルズはに不候數

一 聖四〇四
 二 聖十九〇八
 三 聖十九〇八
 四 聖十九〇八
 五 聖十九〇八
 六 聖十九〇八
 七 聖十九〇八
 八 聖十九〇八
 九 聖十九〇八
 十 聖十九〇八
 十一 聖十九〇八
 十二 聖十九〇八

一 人いまだ其衣を汚さざる者あり彼等ハ白衣をきて我と同行せん彼等ハ
 二 然するに足るは也三勝を得ものハ白衣を着られん我うは名を生命の書よ
 三 り塗抹さす又わが父と其使等は前に彼が名を言陳ん六耳ある者ハ靈は諸
 四 教會にいふ所を聽べし○爾はラビラビラは教會は使者に書贈るべし聖
 五 もは誠なる者タビラビラは鑰をもつ者かれ開バ誰も闖るこぞ能ハす彼開レバ
 六 誰も闖るこぞ能ハす此者かくは如く言はれ爾は行爲をしろ視よ我れ
 七 門を爾は前に開けり之を闖るこぞを得る者なし蓋なんぢ少く力ありて我
 八 言を守り我名を棄ぜれば也九夫は自らユダヤ人と稱て實ハ非ず唯謊言を
 九 いふサタツは會は或者をして我れこれを爾は所來らしめ爾の足は前に伏
 十 しめ我なんぢを愛せしとを知らしめん爾わが忍耐は言を守しにより我
 十一 も亦なんぢを守りて地に住人を試みんが爲に全世界を臨んとする試煉は
 十二 時に之を免れしむべし十われ迅速に來らん爾が有てこの者堅く保ち
 十三 て爾は是を人に奪るこぞ勿れ十三勝をうる者ハ我神の腹は内に柱とす

一	四一〇	一
二	四二〇	二
三	四三〇	三
四	四四〇	四
五	四五〇	五
六	四六〇	六
七	四七〇	七
八	四八〇	八
九	四九〇	九
十	五〇〇	十
十一	五一〇	十一
十二	五二〇	十二
十三	五三〇	十三
十四	五四〇	十四
十五	五五〇	十五
十六	五六〇	十六
十七	五七〇	十七
十八	五八〇	十八
十九	五九〇	十九
二十	六〇〇	二十
二十一	六一〇	二十一
二十二	六二〇	二十二
二十三	六三〇	二十三
二十四	六四〇	二十四
二十五	六五〇	二十五
二十六	六六〇	二十六
二十七	六七〇	二十七
二十八	六八〇	二十八
二十九	六九〇	二十九
三十	七〇〇	三十
三十一	七一〇	三十一
三十二	七二〇	三十二
三十三	七三〇	三十三
三十四	七四〇	三十四
三十五	七五〇	三十五
三十六	七六〇	三十六
三十七	七七〇	三十七
三十八	七八〇	三十八
三十九	七九〇	三十九
四十	八〇〇	四十
四十一	八一〇	四十一
四十二	八二〇	四十二
四十三	八三〇	四十三
四十四	八四〇	四十四
四十五	八五〇	四十五
四十六	八六〇	四十六
四十七	八七〇	四十七
四十八	八八〇	四十八
四十九	八九〇	四十九
五十	九〇〇	五十
五十一	九一〇	五十一
五十二	九二〇	五十二
五十三	九三〇	五十三
五十四	九四〇	五十四
五十五	九五〇	五十五
五十六	九六〇	五十六
五十七	九七〇	五十七
五十八	九八〇	五十八
五十九	九九〇	五十九
六十	一〇〇〇	六十

さん此より再び出るよと亦し我また我神は名ど吾神は京城すありち天より我神の所より降り降る新しきエルサレムは名および我が新しき名を之を書さん三耳ある者の靈は諸教會よ言どもろを聴べし爾ラオデキヤは教會の使者に書贈るべしアメンたる者忠信ある眞實の證者神の造化の始かる者かくの如く言ふ曰われ爾が冷かむも有す熱くも有ざるふを爾の行為に由て知り我なんぢが冷かなるか或は熱からん事を願ふ爾まで温然して冷かおも有す熱くも有す是故に我なんぢを我が口より吐出さんとす七さんぢ自ら我の富かつ豊になり乏き所なしと稱て實の惱るもの憐むべきものまた貧く書ひ裸體なるを知らせば六われ爾に勸なんぢ富をなさんため我より火に燬たる金を買ふた己が裸體は恥の露れざらん爲に自ら衣を買て纏へ又見こをを得ん爲に目薬を買て目にぬれ九凡て我が愛する者は我これ責め之を懲す是故に爾廓て悔改めよ三視よ我は凡て外に立て叩もし我聲を聞て戸を開く者わらば我その人の所に就ん而して我のろ

三二

三三

三四

三五

三六

三七

三八

三九

四〇

四一

四二

四三

四四

四五

一 約十六節三

二 約二十節三

三 約九節八

四 約一〇節一

五 約一〇節六

六 約一〇節八

七 約一〇節九

八 約一〇節十

九 約一〇節十一

十 約一〇節十二

十一 約一〇節十三

十二 約一〇節十四

十三 約一〇節十五

十四 約一〇節十六

十五 約一〇節十七

十六 約一〇節十八

十七 約一〇節十九

十八 約一〇節二十

十九 約一〇節二十一

二十 約一〇節二十二

二十一 約一〇節二十三

二十二 約一〇節二十四

二十三 約一〇節二十五

二十四 約一〇節二十六

二十五 約一〇節二十七

二十六 約一〇節二十八

二十七 約一〇節二十九

二十八 約一〇節三十

二十九 約一〇節三十一

三十 約一〇節三十二

三十一 約一〇節三十三

三十二 約一〇節三十四

三十三 約一〇節三十五

三十四 約一〇節三十六

三十五 約一〇節三十七

三十六 約一〇節三十八

三十七 約一〇節三十九

三十八 約一〇節四十

三十九 約一〇節四十一

四十 約一〇節四十二

四十一 約一〇節四十三

四十二 約一〇節四十四

四十三 約一〇節四十五

四十四 約一〇節四十六

四十五 約一〇節四十七

四十六 約一〇節四十八

四十七 約一〇節四十九

四十八 約一〇節五十

四十九 約一〇節五十一

五十 約一〇節五十二

五十一 約一〇節五十三

五十二 約一〇節五十四

五十三 約一〇節五十五

五十四 約一〇節五十六

五十五 約一〇節五十七

五十六 約一〇節五十八

五十七 約一〇節五十九

五十八 約一〇節六十

五十九 約一〇節六十一

六十 約一〇節六十二

六十一 約一〇節六十三

六十二 約一〇節六十四

六十三 約一〇節六十五

六十四 約一〇節六十六

六十五 約一〇節六十七

六十六 約一〇節六十八

六十七 約一〇節六十九

六十八 約一〇節七十

六十九 約一〇節七十一

七十 約一〇節七十二

七十一 約一〇節七十三

七十二 約一〇節七十四

七十三 約一〇節七十五

七十四 約一〇節七十六

七十五 約一〇節七十七

七十六 約一〇節七十八

七十七 約一〇節七十九

七十八 約一〇節八十

七十九 約一〇節八十一

八十 約一〇節八十二

八十一 約一〇節八十三

八十二 約一〇節八十四

八十三 約一〇節八十五

八十四 約一〇節八十六

八十五 約一〇節八十七

八十六 約一〇節八十八

八十七 約一〇節八十九

八十八 約一〇節九十

八十九 約一〇節九十一

九十 約一〇節九十二

九十一 約一〇節九十三

九十二 約一〇節九十四

九十三 約一〇節九十五

九十四 約一〇節九十六

九十五 約一〇節九十七

九十六 約一〇節九十八

九十七 約一〇節九十九

九十八 約一〇節一百

九十九 約一〇節一百一

一百 約一〇節一百二

一百一 約一〇節一百三

一百二 約一〇節一百四

一百三 約一〇節一百五

一百四 約一〇節一百六

一百五 約一〇節一百七

一百六 約一〇節一百八

一百七 約一〇節一百九

一百八 約一〇節一百十

一百九 約一〇節一百一十

二百 約一〇節一百二十

二百一 約一〇節一百三十

二百二 約一〇節一百四十

二百三 約一〇節一百五十

二百四 約一〇節一百六十

二百五 約一〇節一百七十

二百六 約一〇節一百八十

二百七 約一〇節一百九十

二百八 約一〇節二百

二百九 約一〇節二百一

三百 約一〇節二百二

三百一 約一〇節二百三

三百二 約一〇節二百四

三百三 約一〇節二百五

三百四 約一〇節二百六

三百五 約一〇節二百七

三百六 約一〇節二百八

三百七 約一〇節二百九

三百八 約一〇節三百

三百九 約一〇節三百一

四百 約一〇節三百二

四百一 約一〇節三百三

四百二 約一〇節三百四

四百三 約一〇節三百五

四百四 約一〇節三百六

四百五 約一〇節三百七

四百六 約一〇節三百八

四百七 約一〇節三百九

四百八 約一〇節四百

四百九 約一〇節四百一

五百 約一〇節四百二

五百一 約一〇節四百三

五百二 約一〇節四百四

五百三 約一〇節四百五

五百四 約一〇節四百六

五百五 約一〇節四百七

五百六 約一〇節四百八

五百七 約一〇節四百九

五百八 約一〇節五百

五百九 約一〇節五百一

六百 約一〇節五百二

六百一 約一〇節五百三

六百二 約一〇節五百四

六百三 約一〇節五百五

六百四 約一〇節五百六

六百五 約一〇節五百七

六百六 約一〇節五百八

六百七 約一〇節五百九

六百八 約一〇節六百

六百九 約一〇節六百一

七百 約一〇節六百二

七百一 約一〇節六百三

七百二 約一〇節六百四

七百三 約一〇節六百五

七百四 約一〇節六百六

七百五 約一〇節六百七

七百六 約一〇節六百八

七百七 約一〇節六百九

七百八 約一〇節七百

七百九 約一〇節七百一

八百 約一〇節七百二

八百一 約一〇節七百三

八百二 約一〇節七百四

八百三 約一〇節七百五

八百四 約一〇節七百六

八百五 約一〇節七百七

八百六 約一〇節七百八

八百七 約一〇節七百九

八百八 約一〇節八百

八百九 約一〇節八百一

九百 約一〇節八百二

九百一 約一〇節八百三

九百二 約一〇節八百四

九百三 約一〇節八百五

九百四 約一〇節八百六

九百五 約一〇節八百七

九百六 約一〇節八百八

九百七 約一〇節八百九

九百八 約一〇節九百

九百九 約一〇節九百一

一千 約一〇節九百二

一千一 約一〇節九百三

一千二 約一〇節九百四

一千三 約一〇節九百五

一千四 約一〇節九百六

一千五 約一〇節九百七

一千六 約一〇節九百八

一千七 約一〇節九百九

一千八 約一〇節一千

一千九 約一〇節一千一

二千 約一〇節一千二

二千一 約一〇節一千三

二千二 約一〇節一千四

二千三 約一〇節一千五

二千四 約一〇節一千六

二千五 約一〇節一千七

二千六 約一〇節一千八

二千七 約一〇節一千九

二千八 約一〇節二千

二千九 約一〇節二千一

三千 約一〇節二千二

三千一 約一〇節二千三

三千二 約一〇節二千四

三千三 約一〇節二千五

三千四 約一〇節二千六

三千五 約一〇節二千七

三千

カ 七〇十

キ 七〇一

ク 七〇二

ケ 七〇三

コ 七〇四

カ 七〇五

キ 七〇六

ク 七〇七

ケ 七〇八

コ 七〇九

カ 七一一

キ 七一二

ク 七一三

ケ 七一四

コ 七一五

カ 七一六

キ 七一七

ク 七一八

ケ 七一九

コ 七二〇

カ 七二一

キ 七二二

ク 七二三

ケ 七二四

コ 七二五

カ 七二六

キ 七二七

ク 七二八

ケ 七二九

コ 七三〇

へるを聞き曰く願くハ讚美尊敬榮光權力寶座に坐する者ど蓋とに歸し

て世々窮乏からんことを是に於て四の活物アマシと曰り二十四人の長

老伏て拜せり

第一の封印を開しとき我觀しに活物の一つ雷の如き聲にて來

れど曰を開り三われ觀しに一匹の白馬を見たり之に乗るもの弓を携ふ且

冕を與られたり彼常に勝り又勝を得んとて出たり三また第二の封印を

開し時われ第二の活物の來れど曰を開り四また一匹の赤馬いで來れり之

に乗るもの地の平和を奪ひ且人々をして彼此に相殺しむる權を手られた

り彼また巨なる刀を授けらる五また第三の封印を開しとき第三の活物

の來れど曰を開り我觀しに一匹の黒馬を見たり之に乗るもの手に權衡を

持り六我が四の活物の中に聲あるを開り曰く銀十五錢に小麦五合銀十

五錢に大麦一升五合なり油と葡萄酒を傷ふ可らず七また第四の封印を

開しとき第四の活物來れど曰を開り八われ觀しに一匹の灰色たる馬を

十四

十三

十二

十一

十

九

八

七

六

五

四

三

二

一

見たり之に乗る者の名ハ死といふ陰府の後に隨入り彼等刀劍饑饉死

亡および地の猛獸をもて世の人の四分の一を殺すの權を手られたり九

また第五の封印を開しとき祭壇の下に昏て神の道のため及りの立し證の

爲に殺されたる者等ハ靈魂あるを見たり十かれら大聲に呼り曰けるハ聖

誠主よ何時まで地にすむ者等を審判せしめ且これに我儕ハ血ハ報をなし

給ざる乎十一爰に彼等各人に白衣を賜へて之に曰給ひけるハ彼等汝如く殺

されんとする其共に繋ける兄弟等ハ數れ盈るまで安んじて暫く待べし

十三また第六の封印を開し時われ觀しに大なる地震あり日ハ毛布汝如く黒

なり月ハ血汝如くなれり十三天ハ星ハ無花果汝觀し大風に搖て未だ熟せざ

る其果の落るが如く地に墮ち天ハ巻物を捲が如く去ゆき諸山諸島みな移

て又汝處を離れたり十五地汝諸王また貴人富者將軍勇士すべての奴隸

すべて自主悉く洞に墜れ山の巖の中に匿れ十六山と巖とに曰けるハ願

く我儕の上に墜我儕を掩ふて寶座に坐する者の面と蓋とを避しめよ

十六

十五

十四

十三

十二

十一

十

九

八

七

六

五

四

三

二

一

カ 七三〇

キ 七三一

ク 七三二

ケ 七三三

コ 七三四

カ 七三五

キ 七三六

ク 七三七

ケ 七三八

コ 七三九

カ 七四〇

キ 七四一

ク 七四二

ケ 七四三

コ 七四四

カ 七四五

キ 七四六

ク 七四七

ケ 七四八

コ 七四九

カ 七五〇

キ 七五一

ク 七五二

ケ 七五三

コ 七五四

カ 七五五

キ 七五六

ク 七五七

ケ 七五八

コ 七五九

カ 七五九

キ 七六〇

ク 七六一

ケ 七六二

コ 七六三

カ 七六四

キ 七六五

ク 七六六

ケ 七六七

コ 七六八

カ 七六九

キ 七七〇

ク 七七一

ケ 七七二

コ 七七三

カ 七七四

キ 七七五

ク 七七六

ケ 七七七

コ 七七八

カ 七七九

キ 七八〇

ク 七八一

ケ 七八二

コ 七八三

カ 七八四

キ 七八五

ク 七八六

ケ 七八七

コ 七八八

カ 七三〇

キ 七三一

ク 七三二

ケ 七三三

コ 七三四

カ 七三五

キ 七三六

ク 七三七

ケ 七三八

コ 七三九

カ 七四〇

キ 七四一

ク 七四二

ケ 七四三

コ 七四四

カ 七四五

キ 七四六

ク 七四七

ケ 七四八

コ 七四九

カ 七五〇

キ 七五一

ク 七五二

ケ 七五三

コ 七五四

カ 七五五

キ 七五六

ク 七五七

ケ 七五八

コ 七五九

へるを聞き曰く願くハ讚美尊敬榮光權力寶座に坐する者ど蓋とに歸し

て世々窮乏からんことを是に於て四の活物アマシと曰り二十四人の長

老伏て拜せり

第一の封印を開しとき我觀しに活物の一つ雷の如き聲にて來

れど曰を開り三われ觀しに一匹の白馬を見たり之に乗るもの弓を携ふ且

冕を與られたり彼常に勝り又勝を得んとて出たり三また第二の封印を

開し時われ第二の活物の來れど曰を開り四また一匹の赤馬いで來れり之

に乗るもの地の平和を奪ひ且人々をして彼此に相殺しむる權を手られた

り彼また巨なる刀を授けらる五また第三の封印を開しとき第三の活物

の來れど曰を開り我觀しに一匹の黒馬を見たり之に乗るもの手に權衡を

持り六我が四の活物の中に聲あるを開り曰く銀十五錢に小麦五合銀十

五錢に大麦一升五合なり油と葡萄酒を傷ふ可らず七また第四の封印を

開しとき第四の活物來れど曰を開り八われ觀しに一匹の灰色たる馬を

見たり之に乗る者の名ハ死といふ陰府の後に隨入り彼等刀劍饑饉死

亡および地の猛獸をもて世の人の四分の一を殺すの權を手られたり九

また第五の封印を開しとき祭壇の下に昏て神の道のため及りの立し證の

爲に殺されたる者等ハ靈魂あるを見たり十かれら大聲に呼り曰けるハ聖

誠主よ何時まで地にすむ者等を審判せしめ且これに我儕ハ血ハ報をなし

給ざる乎十一爰に彼等各人に白衣を賜へて之に曰給ひけるハ彼等汝如く殺

されんとする其共に繋ける兄弟等ハ數れ盈るまで安んじて暫く待べし

十三また第六の封印を開し時われ觀しに大なる地震あり日ハ毛布汝如く黒

なり月ハ血汝如くなれり十三天ハ星ハ無花果汝觀し大風に搖て未だ熟せざ

る其果の落るが如く地に墮ち天ハ巻物を捲が如く去ゆき諸山諸島みな移

て又汝處を離れたり十五地汝諸王また貴人富者將軍勇士すべての奴隸

すべて自主悉く洞に墜れ山の巖の中に匿れ十六山と巖とに曰けるハ願

く我儕の上に墜我儕を掩ふて寶座に坐する者の面と蓋とを避しめよ

十六

十五

十四

十三

十二

十一

十

九

八

七

六

五

四

三

二

一

カ 七三〇

キ 七三一

ク 七三二

ケ 七三三

コ 七三四

カ 七三五

キ 七三六

ク 七三七

ケ 七三八

コ 七三九

カ 七四〇

キ 七四一

ク 七四二

ケ 七四三

コ 七四四

カ 七四五

キ 七四六

ク 七四七

ケ 七四八

コ 七四九

カ 七五〇

キ 七五一

ク 七五二

ケ 七五三

コ 七五四

カ 七五五

キ 七五六

ク 七五七

ケ 七五八

コ 七五九

日 聖〇十四聖八
 八 聖〇廿二
 九 聖〇廿三
 十 聖〇廿四
 十一 聖〇廿五
 十二 聖〇廿六
 十三 聖〇廿七
 十四 聖〇廿八
 十五 聖〇廿九
 十六 聖〇三十
 十七 聖〇三十一
 十八 聖〇三十二
 十九 聖〇三十三
 二十 聖〇三十四
 二十一 聖〇三十五
 二十二 聖〇三十六
 二十三 聖〇三十七
 二十四 聖〇三十八
 二十五 聖〇三十九
 二十六 聖〇四十
 二十七 聖〇四十一
 二十八 聖〇四十二
 二十九 聖〇四十三
 三十 聖〇四十四
 三十一 聖〇四十五
 三十二 聖〇四十六
 三十三 聖〇四十七
 三十四 聖〇四十八
 三十五 聖〇四十九
 三十六 聖〇五十
 三十七 聖〇五十一
 三十八 聖〇五十二
 三十九 聖〇五十三
 四十 聖〇五十四
 四十一 聖〇五十五
 四十二 聖〇五十六
 四十三 聖〇五十七
 四十四 聖〇五十八
 四十五 聖〇五十九
 四十六 聖〇六十
 四十七 聖〇六十一
 四十八 聖〇六十二
 四十九 聖〇六十三
 五十 聖〇六十四

十七 此の蓋は怒れ大なる日すでに至れるなり誰か之に抵ることを得んや

此後われ四人は天使地の四隅に立て地は四方は風を攪とめ地は上に海は上にも樹は上にも風を吹せざるを見たり又之の他に一人は天使活神は印を持って東より登り来るを見たり此使者は地と海を傷ふことを許されたる四人の使者は向て大聲に呼り我儕の神は僕に額に我儕が印するまで地をも海をも樹をも傷ふ可らずと曰り我印せられたる者の數を聞き我儕は諸れ支派はうち印せられたる者合せて十四萬四千ありユダは支派は一萬二千ルベンは支派は一萬二千ガドは支派は一萬二千アセルは支派は一萬二千ナフタリは支派は一萬二千マナセは支派は一萬二千シメオンは支派は一萬二千レビは支派は一萬二千イサカルは支派は一萬二千ハゼブルンは支派は一萬二千ヨセフは支派は一萬二千ベニヤミンは支派は一萬二千ラヴィは支派は一萬二千支派は一萬二千

此後我觀しに諸國 諸族 諸民 諸音の中より誰れ數へ盡すと能ざるは悉

リ 聖〇七、
 三、利三〇、
 四、利三〇、
 五、利三〇、
 六、利三〇、
 七、利三〇、
 八、利三〇、
 九、利三〇、
 十、利三〇、
 十一、利三〇、
 十二、利三〇、
 十三、利三〇、
 十四、利三〇、
 十五、利三〇、
 十六、利三〇、
 十七、利三〇、
 十八、利三〇、
 十九、利三〇、
 二十、利三〇、
 二十一、利三〇、
 二十二、利三〇、
 二十三、利三〇、
 二十四、利三〇、
 二十五、利三〇、
 二十六、利三〇、
 二十七、利三〇、
 二十八、利三〇、
 二十九、利三〇、
 三十、利三〇、
 三十一、利三〇、
 三十二、利三〇、
 三十三、利三〇、
 三十四、利三〇、
 三十五、利三〇、
 三十六、利三〇、
 三十七、利三〇、
 三十八、利三〇、
 三十九、利三〇、
 四十、利三〇、
 四十一、利三〇、
 四十二、利三〇、
 四十三、利三〇、
 四十四、利三〇、
 四十五、利三〇、
 四十六、利三〇、
 四十七、利三〇、
 四十八、利三〇、
 四十九、利三〇、
 五十、利三〇、

は許多は八白衣をき手お機欄は葉をもち寶座は黒は前に來りて立ち加

れら大聲に呼り曰けるは救ひの寶座に坐せる我儕の神は黒より出るなり

天使みな寶座および長老等と四の活物との四圍に立て寶座に向ひ伏せし

て神を拜し曰けるはアメン願くは讚美榮光智慧感謝謝敬權威能力

世々窮なく我儕は神に歸せよアメン長老は一人われに曰けるは此白衣

を着たる者の誰か且何處より來りし乎われ答けるは君よ爾れを知べ

し彼われに曰けるは彼等は大なる艱難を経て來れり曾て黒の血にて其衣

を滌これと白なせる者なり是故わ彼等ハ神の寶座の前に在かつ神は服

にて夜晝神も事ハ寶座に坐する者ハ彼等ハ中に居給ふべし十六彼等ハ重て

飢ず重て渴すまた日も熱氣も彼等を害之ざる也まろハ寶座は前にある黒

かれらに養ひ彼等を活る水は源に導き又神かれらの涙を其目より拭ひ給

ふ可れべ也

此後我觀しに諸國 諸族 諸民 諸音の中より誰れ數へ盡すと能ざるは悉

二千ヨセフは支派は一萬二千ベニヤミンは支派は一萬二千ラヴィは支派

派は一萬二千イサカルは支派は一萬二千ハゼブルンは支派は一萬

二千マナセは支派は一萬二千シメオンは支派は一萬二千レビは支

支派は一萬二千アセルは支派は一萬二千ナフタリは支派は一萬

萬四千ありユダは支派は一萬二千ルベンは支派は一萬二千ガドは

者の數を聞き我儕は諸れ支派はうち印せられたる者合せて十四

が印するまで地をも海をも樹をも傷ふ可らずと曰り我印せられたる

ことを許されたる四人の使者は向て大聲に呼り我儕の神は僕に額に我儕

天使活神は印を持って東より登り来るを見たり此使者は地と海を傷ふ

上にも海は上にも樹は上にも風を吹せざるを見たり又之の他に一人は

此後われ四人は天使地の四隅に立て地は四方は風を攪とめ地は

十七 此の蓋は怒れ大なる日すでに至れるなり誰か之に抵ることを得んや

約翰默示錄第八章 自十五至八章二節 七百廿七

イ 二〇五至七

ウ 二四一〇至

エ 四六〇至二

カ 一五〇至

キ 一五〇至八九

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

女の鬘の如き鬘あり其鬘ハ獅子の齒の如し九また鐵の胸當の如き胸當あり其鬘の音ハ數多れ戰車を引て戰場に馳るが如し十且これに鬘は尾れ如き尾と齧どわり此蝮五ヶ月はわひ人々を傷ふ權を有り十一是れ蝮に王あり底亦き抗れ使者ありヘブルの音にて其名をアバドンと云ギリシヤの音おてアポリオンと云ニ一の禍すぎ去て亦は二の禍至らん是す十三第六の天使の使を吹し時わかれ神の前なる金の祭壇の四角より出る聲ありて十四この箴を持る第六の天使の使に語をさく曰かの繫れて大河ユフラタの邊に

ある四人の使者を釋せ十五乃ち四人は使者釋れたり年月日時お至りて人れ三分れ一を殺さん爲に之を備しむは也十六騎兵は數々お萬々あり我うは數を開り十七我異象に此馬と之に乗る者を見しが其形狀かくの如し彼等ハ火色紫色、硫磺色の胸當を着馬の首ハ獅子の首の如く其口よりハ火と煙と硫磺の口より出る火と煙と硫磺と三のものゝ爲本人の三分の一殺れたり十八この馬の力量ハ口は尾おわり其尾ハ蛇の如おして首あり之を

三 代下八〇番二節五〇三

イ 聖前十〇世聖前〇一

ウ 聖三〇五

カ 聖三〇五

キ 聖一〇六本十均三

ク 聖一〇六本十均三

ケ 聖一〇六本十均三

コ 聖一〇六本十均三

ク 聖一〇六本十均三

ケ 聖一〇六本十均三

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

以て人を傷ふ也二十この禍にて殺れざる餘の人々の手亦す所を悔改めず惡鬼を拜し見之と聞之と行て之を得ざる金銀銅石木の偶像を拜し三双の兎殺魔術、毒淫、深癩を悔改めず

一人の強き天使の雲を衣て天より降るを見たり虹の首にあり其面ハ日の如く其足ハ火の柱の如し三其手にハ展たる小巻をどり其右の足を海の上にふみ左の足を地に履三獅子の吼る如く大聲に呼れり呼れるとき七の雷ありて聲を出せり四七の雷聲を發しく時われ之を書記さんせしに天より出る聲ありて此七の雷の言ることハ爾これを封じて書記す可らずと曰るを聞り五我が見る所の海と地に跨り立る天の使右の手を擧て天に向ひ六世々窮なく生る者即ち天および其の中の地および其の中のもの海および其の中の物を遣たる者を指て誓ひ曰けるハ此のち時を延す可らず七第七の天使の聲を出すとき即ち雲を吹て空に至りて神の僕亦る預言者等に示し給ひし如く其與義成就すべし八我が聞し所の天よ

三 代下八〇番二節五〇三

イ 聖前十〇世聖前〇一

ウ 聖三〇五

カ 聖三〇五

キ 聖一〇六本十均三

ク 聖一〇六本十均三

ケ 聖一〇六本十均三

コ 聖一〇六本十均三

ク 聖一〇六本十均三

ケ 聖一〇六本十均三

九	三〇六、三〇七、三〇八
十	三〇七、三〇八
十一	三〇七、三〇八
十二	三〇七、三〇八
十三	三〇七、三〇八
十四	三〇七、三〇八
十五	三〇七、三〇八
十六	三〇七、三〇八
十七	三〇七、三〇八
十八	三〇七、三〇八
十九	三〇七、三〇八
二十	三〇七、三〇八
二十一	三〇七、三〇八
二十二	三〇七、三〇八
二十三	三〇七、三〇八
二十四	三〇七、三〇八
二十五	三〇七、三〇八
二十六	三〇七、三〇八
二十七	三〇七、三〇八
二十八	三〇七、三〇八
二十九	三〇七、三〇八
三十	三〇七、三〇八
三十一	三〇七、三〇八
三十二	三〇七、三〇八
三十三	三〇七、三〇八
三十四	三〇七、三〇八
三十五	三〇七、三〇八
三十六	三〇七、三〇八
三十七	三〇七、三〇八
三十八	三〇七、三〇八
三十九	三〇七、三〇八
四十	三〇七、三〇八
四十一	三〇七、三〇八
四十二	三〇七、三〇八
四十三	三〇七、三〇八
四十四	三〇七、三〇八
四十五	三〇七、三〇八
四十六	三〇七、三〇八
四十七	三〇七、三〇八
四十八	三〇七、三〇八
四十九	三〇七、三〇八
五十	三〇七、三〇八

九 出し聲ぞ我に曰けるハ行て夫海と地に跨り立る天使の手に持てころ
 の底たる小き巻を取我我の天使の所に往て之に曰けるハ請小き巻を我
 に手よ彼いひけるハ此巻を取て食盡せ爾の腹苦く爲べし其口に入るどき
 ハ蜜の如く甜らん + われ天使の手より小き巻を取て之を食しに日に在し
 時ハ其甜と蜜の如かりしが食盡しし時わが腹苦く爲たり + かれ我に曰
 けるハ爾再び諸民諸國諸音諸王の事を預言すべし

十 爾が杖の如き杖を予られたり天使われに曰けるハ起て神の殿と
 香壇並に其處にて拜する者を度れ三殿の外の庭ハ遺して度る可らず蓋之
 れを異邦人に予へ給ひたれば也かれら四十二ヶ月のあひだ聖城を蹂躪さ
 る三我わが二人の證者に能を予ん彼等麻の衣を着て千三百六十日の間預
 言すべし彼等ハ地を宰する主の前に立る二の橄欖の樹二の燈臺あり五
 もし彼等を害んんとする者われハ吹ろの口より出て其敵を滅すかり若し
 彼等を害んんとする者われハ其者ハ此の如く殺るべし + かれら預言する

七	三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五十、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇
八	三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五十、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇
九	三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五十、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇
十	三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五十、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇
十一	三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五十、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇
十二	三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五十、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇
十三	三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五十、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇
十四	三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五十、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇
十五	三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五十、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇

七 間天を閉て雨を降ざらしむるの權を有り亦水を血に變らせ且その心の任
 に幾回にても各様の災殃を以て地を聖權を有り 彼等が其證をかし畢ん
 どき底あき坑より上る獸ありて之と戰をかし勝て之を殺さんハその屍ハ
 大ある邑の衢にあり此邑を譬てソドムと名け亦エジプトと名く即ち主の
 十字架に懸られ給ひし所あり 諸民諸族諸音諸國の者三日半の間かれ
 らの屍を見かつ其屍を墓に葬んとを許さず + 地にすむ者等かれらの死し
 らの因て喜び樂み互に禮物を贈答せん蓋て二人の預言者地に住むのを苦
 めたれば也三日半のち生の靈神より出て彼等の中に入かれら起て其の
 足を立しかば之を見もの大に懼たり + われ天より大なる聲ありて此に升
 れと彼等に言を聞り彼等雲に乗て天に升れり其敵之れを見たり + 三この時
 に大なる地震ありて邑の十分の一ハ傾れ此地震の爲に死し者七千人遺れ
 る者等ハ大に懼れ樂を天の神に歸せり + 第十四節の禍すき去り第三の禍速
 に來らんぞす ○ 第七の天使號を吹しとき天に大なる聲ありて曰此世

五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
二〇四十四	四〇四十九〇	四〇八	四九六	五〇七	五〇九	五二〇	五二二	五二四	五二六
五二八	五三〇	五三二	五三四	五三六	五三八	五四〇	五四二	五四四	五四六
五四八	五五〇	五五二	五五四	五五六	五五八	五六〇	五六二	五六四	五六六
五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六	五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六
五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六	五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六
五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六	五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六
五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六	五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六
五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六	五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六
五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六	五六八	五六〇	五六二	五六四	五六六

の諸の國に我儕の主および主のキリストの屬を爲りキリスト世々窮なく
 之を治め給ひん神の前に在て位お坐し居たる二十四人の長老俯伏して
 神を拜し曰ける今在し昔しなす全能の主たる神よ我儕感謝す爾す
 に大なる權を執て政事を施し給ふに因す諸の國の民怒を懷けり爾の怒も
 亦至れり且死し者を審判して爾の僕なる預言者及び聖徒あらゆる小
 どの別あく其名を懼るる者に賞を予へ地を亡し給ふ時既に至れ
 り十九時に神の殿天に開け殿の中に神の約束の櫃みゆ又閃電と聲と迅雷お
 よび地震と大なる聲と有き

愛に大なる異象天に現はる一人の婦わり日を着月を足の下にふ
 み首に十二の星の冕を戴けり彼すでに孕み居しが子を産んとして甚く
 苦み泣叫べりまた一の異象天に現はる一條の大赤なる赤龍あり之に七の
 首と十の角あり其七の首に七の冕を戴けり四の尾にて天の星三分の一
 を曳これ地に墮せり此龍子を産んとする婦の前にたち産を待て其子を

五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
二〇四十六	四〇五十二	四〇九	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇

食んとす婦男子を生り其子鐵の杖をもて萬國の民を主理らんとす彼神
 と其寶座の下に擧られたり婦のがれて野に往り神うにて彼を千二百
 六十日のわひだ食ひしめん爲に備給へる一の所あり斯て天に戰起れり
 ミカエルの使者を率て龍と戰ふ龍も亦りの使者を率て之と戰ひしが
 勝てど龍も且再び天に居て之を得ず是に於て此大なる龍すなりち悪魔
 と呼れサタンと呼るる者全世界の人を惑す老蛇地に逐下ざる其使者も亦
 どもに逐下されたり天に大なる聲あるを聞き曰く我儕の神の救と能力
 と其國と神のキリストの權今すでに至れり蓋われらの神の前に夜晝わ
 れらの兄弟を誅ふる者既に逐下されたり我儕の兄弟の血およ
 び己が證せし所の道に因て之に勝り彼等ハ死に至るまで其生命を惜ざり
 き是は故に天と天に居る者の喜べ地と海の禍なる哉りハ惡魔おのが時の幾
 時も無を去り大なる怒を懷て爾曹の所に下れば也○龍おのが既にお地に
 逐下されしを見て彼の男子を生る婦を窘せり十四この婦大なる煙の二の翼

イ 聖十七〇三、
 四 聖十七〇九、
 五 聖十七〇九、
 六 聖十七〇九、
 七 聖十七〇九、
 八 聖十七〇九、
 九 聖十七〇九、
 十 聖十七〇九、
 十一 聖十七〇九、
 十二 聖十七〇九、
 十三 聖十七〇九、
 十四 聖十七〇九、
 十五 聖十七〇九、
 十六 聖十七〇九、
 十七 聖十七〇九、
 十八 聖十七〇九、
 十九 聖十七〇九、
 二十 聖十七〇九、
 二十一 聖十七〇九、
 二十二 聖十七〇九、
 二十三 聖十七〇九、
 二十四 聖十七〇九、
 二十五 聖十七〇九、
 二十六 聖十七〇九、
 二十七 聖十七〇九、
 二十八 聖十七〇九、
 二十九 聖十七〇九、
 三十 聖十七〇九、
 三十一 聖十七〇九、
 三十二 聖十七〇九、
 三十三 聖十七〇九、
 三十四 聖十七〇九、
 三十五 聖十七〇九、
 三十六 聖十七〇九、
 三十七 聖十七〇九、
 三十八 聖十七〇九、
 三十九 聖十七〇九、
 四十 聖十七〇九、
 四十一 聖十七〇九、
 四十二 聖十七〇九、
 四十三 聖十七〇九、
 四十四 聖十七〇九、
 四十五 聖十七〇九、
 四十六 聖十七〇九、
 四十七 聖十七〇九、
 四十八 聖十七〇九、
 四十九 聖十七〇九、
 五十 聖十七〇九、

六 十二ヶ月のわひだ劍をなすべき權を子らるる。かれ口を啓て神を誦し其名
 と其幕屋および天にすむ者等を誦せり。七 かれ聖徒等と戦ひ之に勝てども
 許され又諸族諸民諸音諸國を宰する權を子られたり。八 地に住る凡の
 人即ち世の始より殺され給ひし羔の生命の册お其名を録されざる者等ハ
 此觀を拜せん九 耳ある者ハ之を聴べし。十 凡の人を虜にする者ハ己また虜
 にせられ万わて人を殺す者ハ己また刀わて殺さるべし。十一 聖徒の忍嗣と信仰
 茲に在○十二 我また一匹の獸の地より出るを見たり之ホ二の角ありて羔の
 角の如し目々の言ふと誰の如し十三 此の獸先の獸の前にて先の獸の凡の權
 威をとり地と其上に住る者をして先に死んとする状なりし傷の愈たる獸
 を拜せしめたり。十四 大なる奇徴をなし人々の前にて火を天より地に降
 し。十五 其の權を得て獸の前にて行ふ所の奇徴を以て地にすむ者を欺き彼等
 に語りて彼の刀傷を受けてなほ活る獸の像を作らしむ。十六 彼の獸の像に生
 命を子へ之をして言ふことを得しめ又その像を拜せざる者を悉く之に殺

イ 聖十七〇三、
 二 聖十七〇九、
 三 聖十七〇九、
 四 聖十七〇九、
 五 聖十七〇九、
 六 聖十七〇九、
 七 聖十七〇九、
 八 聖十七〇九、
 九 聖十七〇九、
 十 聖十七〇九、
 十一 聖十七〇九、
 十二 聖十七〇九、
 十三 聖十七〇九、
 十四 聖十七〇九、
 十五 聖十七〇九、
 十六 聖十七〇九、
 十七 聖十七〇九、
 十八 聖十七〇九、
 十九 聖十七〇九、
 二十 聖十七〇九、
 二十一 聖十七〇九、
 二十二 聖十七〇九、
 二十三 聖十七〇九、
 二十四 聖十七〇九、
 二十五 聖十七〇九、
 二十六 聖十七〇九、
 二十七 聖十七〇九、
 二十八 聖十七〇九、
 二十九 聖十七〇九、
 三十 聖十七〇九、
 三十一 聖十七〇九、
 三十二 聖十七〇九、
 三十三 聖十七〇九、
 三十四 聖十七〇九、
 三十五 聖十七〇九、
 三十六 聖十七〇九、
 三十七 聖十七〇九、
 三十八 聖十七〇九、
 三十九 聖十七〇九、
 四十 聖十七〇九、
 四十一 聖十七〇九、
 四十二 聖十七〇九、
 四十三 聖十七〇九、
 四十四 聖十七〇九、
 四十五 聖十七〇九、
 四十六 聖十七〇九、
 四十七 聖十七〇九、
 四十八 聖十七〇九、
 四十九 聖十七〇九、
 五十 聖十七〇九、

十五 だ養はれたり。十五 蛇の口より水を河の如く婦の後に吐て之を漂さん。とせ
 り。十六 地婦を助け口を啓て龍の口より吐たる水を呑盡せり。十七 龍婦を怒りて
 其餘の兒女すなはち神の誠を守りイエスの證を有つものと戦はん。とて
 往り
 一 我れ海の砂の上に立て一匹の獸の海より出るを見たり之に七の
 首と十の角あり其角の上に十の冕を戴き其首に僞妄の名を書せり。二 我が
 見し所の獸の形ハ豹の如く其足ハ熊の足の如く其口ハ獅子の口の如し
 龍おのれの能力と座位と大なる權威を之に子たり。三 我れこの獸の一の首傷
 を受て幾と死んとする状なるを見たり其死んとする状なりし傷愈けれハ
 全世界の人これを奇として従へり。四 龍の權威を獸に子しに因て人々龍を
 拜し又この獸を拜し曰けるハ誰か此獸の如き者わらんや誰か之と交戰を
 なし得もの有ん乎。五 此の獸大なる言と誦す言といふ口を子られ又四

中央を飛を見たり彼地にすむ者即ち諸國諸族諸音諸民に宣傳ん爲に
 永遠ある所の福音を携へ大なる聲にて曰けるハ神を畏れ榮を之に歸せ
 ヲ蓋神の審判し給ふとき既に至れバなり天地海及び水の源を造り給ひし
 者を拜せよハまた一人の天使ののわだに從ひ往て曰けるハ大なるバビロ
 ンの傾たり傾たり彼のの委淫に囚て干る怒の酒を萬國の民にも飲しめた
 り第三の天使かれらの後に從ひ往て大聲に曰けるハ若し獸と其像を拜し
 し其印誌を續わるハ手に受る者あらバ必ず神の怒の酒を飲ん即ち神
 の怒の杯に物を雜ずして擲る者也また聖天使たち及び羔の前にて火と硫
 磺を以て苦めらるべしとの苦めらるる煙上に騰て盡る時なし獸と其像
 を拜する者また其名の印誌を受る者ハ夜晝安からざるなりハ神の誠とハ
 エスを信する信仰を保つ聖徒の恐願こゝに在れ天より聲ありて我に
 言ふを開り曰ふんち此言を書せ今より後主に在て死る死人の福なり靈も
 亦いふ然かれら其聲苦を止て息ん其功これに隨ハんと〇われ觀しに

六 聖十六五
 七 聖十九〇世
 八 聖十七〇九
 九 聖十七〇九
 十 聖十七〇九
 十一 聖十七〇九
 十二 聖十七〇九
 十三 聖十七〇九
 十四 聖十七〇九

しむるの權を予られたりハかれ衆人をして大小貧富自主奴隷の別なく
 或ハ右の手或ハ額に印誌を受しむハ印誌すなりち獸の名わらざる者ある
 以ハ其名の數わらざる者ハ凡て貿易する事を得ざらしめたりハ此獸の數
 目の義を知ものハ智慧あり才智ある者ハ此獸の數を算ハ獸の數ハ人の數
 なり其數ハ六百六十六なり
 觀しに羔ソノンの山に立ち十四萬四千の人はと偕にあり皆
 うの額に羔の名および羔の父の名を書せりニわれ天より聲あるを聞き衆
 の水の聲の如く大なる雷の聲の如し我が開し此聲ハ琴を彈者の琴をひく
 琴の音なりニかれら新しき歌を寶座の前および四の生物と長老等の前に
 歌ふ此歌ハ贖ハるることを得て地より來れる十四萬四千の外の聲得て
 どなし四彼等ハ婦女と交りて其身を玷ざる潔者なり且羔の往てころ何處
 にても之に從ふ彼等ハ人の中より贖出されたる者にて神と羔に獻し初の
 果なり五うれ口謊言なし彼等ハ疵なき者也〇我また一人の天使の審署

十六 聖十九〇世
 十七 聖十七〇九
 十八 聖十七〇九
 十九 聖十七〇九
 二十 聖十七〇九
 二十一 聖十七〇九
 二十二 聖十七〇九
 二十三 聖十七〇九
 二十四 聖十七〇九

九 羅二〇七、七〇、七十三、路
 十 申二〇、廿七、
 十一 申二〇、廿七、
 十二 申二〇、廿七、
 十三 申二〇、廿七、
 十四 申二〇、廿七、
 十五 申二〇、廿七、
 十六 申二〇、廿七、
 十七 申二〇、廿七、
 十八 申二〇、廿七、
 十九 申二〇、廿七、
 二十 申二〇、廿七、
 二十一 申二〇、廿七、
 二十二 申二〇、廿七、
 二十三 申二〇、廿七、
 二十四 申二〇、廿七、
 二十五 申二〇、廿七、
 二十六 申二〇、廿七、
 二十七 申二〇、廿七、
 二十八 申二〇、廿七、
 二十九 申二〇、廿七、
 三十 申二〇、廿七、
 三十一 申二〇、廿七、
 三十二 申二〇、廿七、
 三十三 申二〇、廿七、
 三十四 申二〇、廿七、
 三十五 申二〇、廿七、
 三十六 申二〇、廿七、
 三十七 申二〇、廿七、
 三十八 申二〇、廿七、
 三十九 申二〇、廿七、
 四十 申二〇、廿七、

十五 白雲あり其雲の上に八の子のごときもの首に金の冕を戴き手に利鎌を持
 て坐せり十五一人の天使殿より出大なる聲にて雲の上に坐す者に曰
 けるハ刈時すでに至れり地の穀物すでに熟したり爾の鎌を入れて刈十六雲の
 上に坐する者その鎌を地に入れれば地の穀物刈取れたり十七一人の天
 使天にわる殿より出かれり亦利鎌を持ち大また一人の火を掌る權威を有
 る天使祭壇より出大なる聲にて利鎌を持る者に曰けるハ地の葡萄すで
 に熟したり爾の利鎌を入れて葡萄の球を刈斂めよ十九天使用の鎌を地わ入
 地の葡萄を刈斂めて神の怒の大なる聲に投入たり二十城外にて此聲を廢
 しに血罪より出て馬の轡に達峻迄に至り廣れること七十五里に及びり
 我また大にして且奇なる異象の天に現れしを見たり七人の天使
 最後の七の災殃を持ち神の怒の此にて盡る也二十我また火の難たる玻璃の
 海の如きものを見たり且獸と其像および其名の數わ勝たる者神の琴を執て
 此玻璃の海の上に立るを見たり三かれら神の僕モ一七の歌と羔の歌を謳

ヤ 啓首九〇、九十四、
 一 耶十、廿四、
 二 耶十、廿四、
 三 申三〇、二二、
 四 申三〇、二二、
 五 申三〇、二二、
 六 申三〇、二二、
 七 申三〇、二二、
 八 申三〇、二二、
 九 申三〇、二二、
 十 申三〇、二二、
 十一 申三〇、二二、
 十二 申三〇、二二、
 十三 申三〇、二二、
 十四 申三〇、二二、
 十五 申三〇、二二、
 十六 申三〇、二二、
 十七 申三〇、二二、
 十八 申三〇、二二、
 十九 申三〇、二二、
 二十 申三〇、二二、
 二十一 申三〇、二二、
 二十二 申三〇、二二、
 二十三 申三〇、二二、
 二十四 申三〇、二二、
 二十五 申三〇、二二、
 二十六 申三〇、二二、
 二十七 申三〇、二二、
 二十八 申三〇、二二、
 二十九 申三〇、二二、
 三十 申三〇、二二、
 三十一 申三〇、二二、
 三十二 申三〇、二二、
 三十三 申三〇、二二、
 三十四 申三〇、二二、
 三十五 申三〇、二二、
 三十六 申三〇、二二、
 三十七 申三〇、二二、
 三十八 申三〇、二二、
 三十九 申三〇、二二、
 四十 申三〇、二二、

一 啓首九〇、九十四、
 二 耶十、廿四、
 三 申三〇、二二、
 四 申三〇、二二、
 五 申三〇、二二、
 六 申三〇、二二、
 七 申三〇、二二、
 八 申三〇、二二、
 九 申三〇、二二、
 十 申三〇、二二、
 十一 申三〇、二二、
 十二 申三〇、二二、
 十三 申三〇、二二、
 十四 申三〇、二二、
 十五 申三〇、二二、
 十六 申三〇、二二、
 十七 申三〇、二二、
 十八 申三〇、二二、
 十九 申三〇、二二、
 二十 申三〇、二二、
 二十一 申三〇、二二、
 二十二 申三〇、二二、
 二十三 申三〇、二二、
 二十四 申三〇、二二、
 二十五 申三〇、二二、
 二十六 申三〇、二二、
 二十七 申三〇、二二、
 二十八 申三〇、二二、
 二十九 申三〇、二二、
 三十 申三〇、二二、
 三十一 申三〇、二二、
 三十二 申三〇、二二、
 三十三 申三〇、二二、
 三十四 申三〇、二二、
 三十五 申三〇、二二、
 三十六 申三〇、二二、
 三十七 申三〇、二二、
 三十八 申三〇、二二、
 三十九 申三〇、二二、
 四十 申三〇、二二、

四 白雲あり其雲の上に八の子のごときもの首に金の冕を戴き手に利鎌を持
 て坐せり十五一人の天使殿より出大なる聲にて雲の上に坐す者に曰
 けるハ刈時すでに至れり地の穀物すでに熟したり爾の鎌を入れて刈十六雲の
 上に坐する者その鎌を地に入れれば地の穀物刈取れたり十七一人の天
 使天にわる殿より出かれり亦利鎌を持ち大また一人の火を掌る權威を有
 る天使祭壇より出大なる聲にて利鎌を持る者に曰けるハ地の葡萄すで
 に熟したり爾の利鎌を入れて葡萄の球を刈斂めよ十九天使用の鎌を地わ入
 地の葡萄を刈斂めて神の怒の大なる聲に投入たり二十城外にて此聲を廢
 しに血罪より出て馬の轡に達峻迄に至り廣れること七十五里に及びり
 我また大にして且奇なる異象の天に現れしを見たり七人の天使
 最後の七の災殃を持ち神の怒の此にて盡る也二十我また火の難たる玻璃の
 海の如きものを見たり且獸と其像および其名の數わ勝たる者神の琴を執て
 此玻璃の海の上に立るを見たり三かれら神の僕モ一七の歌と羔の歌を謳
 此の如きものを見たり且獸と其像および其名の數わ勝たる者神の琴を執て
 此玻璃の海の上に立るを見たり三かれら神の僕モ一七の歌と羔の歌を謳
 此の如きものを見たり且獸と其像および其名の數わ勝たる者神の琴を執て
 此玻璃の海の上に立るを見たり三かれら神の僕モ一七の歌と羔の歌を謳

て曰けるハ主全能の神あなちの行爲が大なるかな奇妙なるかな萬民の王よ
 爾の道ハ義なるかな誠なる哉主よ誰か爾を畏ざらんや誰か爾の名を崇
 びらんや唯ならん聖し萬國の民ならんやの前來りて拜せん爾の義き行爲
 すでに顯れたり○此後われ轡して天にて證の幕屋の殿開たり七の災
 殃を持つ七の天使潔して光ある布をき胸に金の帯を束ねて此殿より出
 四の活物の一この七人の天使に世々驛なく在す神の怒を盛る金の金椀を
 子ふハ神の榮光と權カより出る煙殿に滿たり七の天使の持つ七の災殃の
 畢まで殿に入てどを得者なし
 我また殿より大なる聲いで七の天使に語るを聞き曰く往て神
 の怒を盛る七の金椀を地に傾けよ三第一の使者ゆきて七の金椀を地に傾
 けりれバ獸の印誥ある人と其像を拜する人とに惡かつ苦痛の腫物生たり
 第三の使者の金椀を海に傾けりれバ海に死し者の血の如くなりて海
 における活物みな死たり四第三の使者の金椀を河および水の源に傾けり

十二	オカ 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十三	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十四	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十五	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十六	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十七	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十八	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十九	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
二十	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
二十一	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
二十二	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四

坐する者を見る地と天と其前を遁て再び留るべき處を得ず十二我ら死し者の大と小との別なく皆神の前に立を見たり其處に書ありて展く別に又一の書ありて展これ生命の書なり死し者皆書に録せる所の事に由るの行に循ひて審判を受ける也十三海の中の死人を出し死と陰府と其中の死人を出せし彼等おの其行に循ひて審判を受たり死と陰府と火の池に投入られたり

池に投入られたり

われ新しき天と新しき地を見たり先の天と先の地の既に過ぎり海も亦有となしわれ聖城なる新しきエルサレム備整以神の所を出て天より降るを見うの狀ハ新婦の新郎を迎え九爲に修飾たるが如しわれ大神の民となり神また人と共に在して其神と爲給ふなり神かれらの目の

の務を悉く拭どり復死わらず哀み哭き痛み有てとなし蓋新事すでに過去

五	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
六	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
七	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
八	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
九	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十一	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四
十二	カク 聖六十四 カク 聖六十四 カク 聖六十四

バなり寶座に坐する者見れば曰ける見よ我萬物を新にせん又我に曰けるハ爾これを書記せ蓋之の言ハ信亦可して確實なれば也六かれ我に曰けるハ既に成り我ハアルバ也オメガなり始なり終なり濁者にハ價なしに生命の水の源にて飲事を許さん七勝をうる者ハ此等の物を得て其業と爲る我かれの神となり彼わが子と爲べし八然んば隠する者信せざる者憎む可もの人を殺するの奸雄を行ふもの魔術をなす者偶像を拜する者および凡て謀を言ものハ火と硫磺の燃る池にて其報を受べし是第二の死なり九

末後の七の災殃の盛る七の金椀を執る七人の天使の一人來りて我に語り曰けるハ來れ我なんぢに羔の妻なる新婦を見せん十且れ靈に感じ天使に携へられて大なる高山に至れり此にて我に大なる城聖エルサレム神の榮を以て神の所を出て天より降るを示す十一其城の光輝くこと至寶き玉の如く澄澈る金剛石の如し十二此に大なる高き石垣ありて十二門あり其門に十二の天使をれり門の上に名を書せりハスラエルの十二の支派の名な

新約全書

約翰默示錄

新約全書約翰默示錄終